

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2772501132		
法人名	社会福祉法人 池田さつき会		
事業所名	グループホームポプラ東山		
所在地	大阪府池田市東山町555-1		
自己評価作成日	平成 23年 2月 7日	評価結果市町村受理日	平成 23年 7月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2772501132&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2772501132&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者と職員が「共に生き、生活する場」
---------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が運営するグループホームで、特養やデイサービス等を併設しています。ホーム周辺の庭には季節毎に花を咲かせる木が植えられ、周辺にも緑が溢れています。共用空間には、広い庭に面した開放的な大きな窓があり、そこから見える周辺の自然景観とともに、メダカを飼い、花を飾り、ぬりえ、書など利用者の作品を掲示しています。雛人形を模して利用者の顔写真をつけ、ひな壇状の貼り絵のタペストリー等を飾り、季節感のあるやわらかい雰囲気をつくっています。行き届いたケアサービス、医療面での十分な配慮のもと、職員が利用者に対し優しく接しており、利用者は生き生きと笑顔で過ごしています。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会議などで、運営理念を念頭に認識の共通理解を確認する	「明るく、楽しく、前向きに」をグループホームの理念とし、職員中心で決めたユニット目標とともにスタッフ室に明示しています。定例のスタッフ会議や毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣への散歩を通じ、住民との挨拶や100円野菜の購入等で日常の基礎交流を図る。 小学校などの児童生徒の学習訪問を受け入れ、親世代も巻き込んでのお付き合いをを行う。	地域の自治会に加入し、地域の祭りに参加しています。日常の周辺散歩では住民と挨拶を交わし、農家の新鮮で安い100円野菜を買うなど近所付き合いをしています。利用者は訪れてくれる小学生や中学生と交流し、近隣の知的障がい者作業所のお祭りに参加したり、作業所での織物作りを楽しんだりしています。また地域のボランティアとぬりえ、折り紙や詩吟、朗読、書道、メイク、英会話を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人全体の地域貢献の取り組みとリンクさせる事を目標とする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則、奇数月第2日曜日に開催している。 地域住民、地域包括支援センター、ご家族、職員が参加。率直な以下円交換が行われ、同時に現状の報告が行われている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域住民、市の介護相談員、家族の参加のもと、おおむね年6回のペースで開催しています。会議では事業所の活動状況や多彩な行事について説明し、利用者の状況や看取り、消防避難訓練などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議、市内 GH 連絡会への出席、相談員の定期訪問が上げられる。 施設単独では解決できない問題の相談など協力体制が出来ている。	市の担当職員とは困難事例の相談や交流を図り、協力関係を築いています。市が主催する地域ケア会議や市も参加している自主運営のグループホーム連絡会にも参加しています。市の介護相談員も受け入れています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束全般への理解はかなりのレベルで達成できています。 日常的なカンファレンス、打ち合わせの中でも積極的に話し合われている。 しかしながら、スタッフ体制の不備（人員数他）からの「ちょっと待って下さい」という言葉の拘束が解消しない。	身体拘束のないケアに取り組んでいます。前回外部評価で示された玄関扉の電子ロックの施錠については、外部にも通じている庭に面したリビングの2カ所の大きな窓を開放する対策を講じていますが、玄関扉については死角になることから開錠には至っていない状況です。今後職員の意見を聞きながら、現在扉に取り付けられている警報音を活用し、昼間の時間帯の開錠を試みる予定です。	利用者や家族への心理的拘束感を軽減するためにも、管理者や職員がさらに話し合いを続け、日中の可能な時間帯だけでも見守りの強化等を行い、安全面に配慮しながら、少しでも鍵をかけないようにする工夫が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現管理者は法人内での拘束関係研修講師を務めている。 職員との日常的なケア業務や打ち合わせを通じて虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止を含め、権利擁護関連の研修に努めている パンフレットを備えたりして啓発に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や、折に触れての質問などへは丁寧な対応を心掛けている。 関連する文書も整備して居る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	池田市の訪問相談員受け入れや、運営推進委員会にご家族に入っていただく事によって外部からの意見を活用させていただいている。 ボランティアの方々からもご意見を頂いている。	家族には日常の健康や安全、金銭などに関する頻繁な連絡以外に、担当の職員が毎月手書きで利用者の生活ぶりや行事予定について書いた手紙を送付しています。また、家族は面会以外にも利用者の誕生日の茶話会に参加したり、介護計画の見直し時にケアマネジャーと話し合ったりするなど意見や要望を伝える機会を作っています。また市の介護相談員を受け入れ、利用者が外部者に要望を表せる機会を設けています。	昨年秋に管理者が交代して数ヶ月が経過しています。家族には新管理者と話し合いたいという要望もあることから、家族との面談を計画されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議を始め、ご家族の出席される行事、カンファレンスには極力出席し、意見を伺い運営に反映できるよう努めている。	現在管理者はケア現場のローテーションに入り、利用者や職員に直接接する努力をしています。職員は定例のスタッフ会議や各種の委員会、日常の業務を通じて意見や提案をする機会があります。また職員は、年度計画で自己評価を行い、幹部と話し合う機会があります。	昨年秋に管理者が交代して数ヶ月が経過しています。職員は新管理者と話し合いたいという要望もあることから、職員との面談を計画されてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの向上心を支えるよう研修などの機会を法人全体で設定している  シフト調整を含む労働環境整備は個人の生活状況も加味しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で調整し研修参加の機会を設定している。 ユニット会議、カンファレンスにおいても管理者は教育的視点で取り組む用心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	引き続き、池田市 GH 連絡会の集まりに参加している。 隣接市に新規開設されるGH職員の職場実務実習を受け入れた事で新しい交流や職員の自身が生まれつつある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、生活状況確認の為事前面接訪問を行い面談させていただき問題点を整理する その上でケアプランに基づきご家族や関係者の協力を依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の「介護者」としての疲労困憊状況を（過去の経験を含め）感じ取る事が多い 共感と理解を基本にご本人のGHにおける「新しい生活」への理解協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や関係者からの聞き取りを通じて、過去—現在—未来の生活を見極めるよう努め、外部の関連サービス利用を含めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護者」ではなく「共に生きる生活者」としての視点を持つように管理者から働きかけている。 職員も利用者の個性を見極めたうえでの「共に」の発想を大切に認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各種行事や日常での意見交換連絡などで、積極的に関わってくださるご家族が多い。 ご家族への関係性継続の働きかけは日常的に意識されている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪、友人との外出などが行われ、職員もそれを積極的にサポートしているが、なじみの人の高齢化や生活していた場所の景観変化の問題が出始めている	利用者が入居前に住んでいた家の近所の友人が訪ねてきたり、友人との外食に出かけるなどの支援をしています。利用者が大切に、大事に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活全般にわたり、注意深く利用者同士のかかわりを支援している。 食事テーブルの組み合わせ、催し物の席順他。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設(併設特養・病院他)に移動された方も合同行事等の機会を捉えてお会いするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の思いや訴えに耳を傾け声なき声を具体化しようと努めているが、「帰りたい・・・」などの訴えに対しては、その場限りの対応になりがちである。定期カンファレンスなどで意見交換は行っているが、なかなか対応策が見つからないのが現状である。	入居当初のアセスメントに加えて、その後ホームでの日々の暮らしの中で、聞き取った希望や思いを追記し、馴染みの人との交流等、実現に向けて支援をしています。	開設後数年が経過し、利用者の認知症の進行や職員の交替があるなかで、全職員が共有できる情報にするために、各利用者の現在の思いや意向を改めて聞き取ることが期待されます。例えばセンター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用して、研修をかねて家族と全職員で作成に取り組まれてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時及び随時にご家族から充分聞き取りを行い、入所後の日常生活観察や直接的な聞き取りで補強しているが、全体像の把握は困難を伴う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・生活記録・申し送り・支援経過等の記録を中心に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画立案・変更は居室担当介護職とご家族、介護支援専門員及び必要に応じて管理者も入って協議している。</p> <p>定期的な見直しも毎月実施中。</p>	<p>介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は毎日「ケース記録」用紙で介護計画の項目毎にモニタリングを行い、居室担当者が毎月集約しています。月毎にスタッフ会議でカンファレンスを行い、家族も参加するサービス担当者会議で介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護日誌・生活記録・申し送り・支援経過等の記録を中心に徹底している。</p> <p>定期的には毎月、状況の変化に応じて随時モニタリング結果を報告し合うようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>法人内の併設施設(特養・デイ)の多彩な行事・催し物に参加することが多い。</p> <p>面会のご家族も一緒に参加される。</p> <p>併設施設の設備(喫茶・展示室など)を活用して居る。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>多彩なご希望に少しでも応えるよう、各種ボランティアの協力を得てイベントだけでなく定期的・参加型の企画を実施している。</p> <p>書道・英会話・折り紙・詩吟・朗読他</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接施設内に開業するクリニックから大きな支援を受けている 入所前からのかかりつけ医師との関係を継続される場合もあり情報交換が行われている。基本的にはご家族の希望を最優先している。 訪問歯科の診療もある	家族と利用者の同意を得て、協力医療機関の医師や看護師が定期的な訪問診療と訪問看護をしています。ホームでは家族の要請で通院の介助も行っています。協力病院と連携し、急変時の対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設内に開業するクリニックから2週間に1回の訪問看護を受けている 医療的な相談を行い、必要に応じて医師とも連携できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関が医師の要請に応じてくれる場合がほとんどであるが、ご家族の希望がある場合は、それ以外の医療機関に対する要請や入院支援も行っている。入院後は、お見舞いや、担当MSWを通じてGHでのケア状況を提供したり、治療状況確認を行い、早期の退院につなげている。認知症が治療上の大きな問題とされる場合が多く入院によるADLの極端な低下などの問題が課題。また、医療関係者がGHの現状を似付いて理解が薄い事も悩みの種。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報施設方針、スタッフの考えをチームの意見として、ご家族にカンファレンス他を通じて伝えるよう努めている。 重いテーマだが、家族との交流会などでも方針は伝えている。	ホームでの看取り実施の方針はありませんが、利用者が重度化した場合でも可能な限りホームでの生活が継続できるよう、状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いを行い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会などで併設特養職員などと合同討議や、法人全体の研修での訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては訓練を実施しているが、その他の災害についてはマニュアルも含めて不十分である スプリンクラー設置を機会に総合的な観点からの取り組みを模索中。	夜間対応を含め、2回の避難訓練を実施していますが、消防署指導の避難訓練は実施できていません。災害時の食料と水の備蓄についても準備できていない状況です。	災害に備え年に2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の指導のもと、避難訓練を実施することが望まれます。備蓄については、非常用食料や飲料水をせめて2日以上、備蓄することが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人に不快感・不安感を抱かせないを基本に注意している。職員の言動、記録内容は注意をしているが、どこまで「なじみの関係」なのか判断に迷う事も多々ある。出身地の方言を学習するなどの工夫を行っている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。利用者は生き生きと、笑顔で暮らしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間がかかり、時として本欄や不穏状態の引き金となる場合も見受けられるが、基本的な意思疎通については焦らずに行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一緒にゆっくりをテーマに取り組んでいる。 希望を引き出す事が困難な方が多く、対応に困難を感じる場合も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性入所者に対しては、十分な配慮に勤めている。 混乱した着衣なども、居室に入っただけ、ゆっくりとコミュニケーションを取りながらの更衣に努めている。 また本人の選択を重視している メイクボランティアも人気である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ、手作り昼食を企画すると共に、漬物作りや日常の料理の取り分け、配膳、下膳も一緒に行っている。食事中的話題に注意し、楽しい雰囲気作りに努めている。	併設特養の厨房より調理済みの食材を取り寄せていますが、ご飯やみそ汁はホームで調理することにしてます。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、盛り付け、後片付けなどの得意な分野で参加しており、調理場に立つ利用者が晴れやかで生き生きとしています。職員は利用者と同じものを一緒に食べながら食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行い、楽しい雰囲気作りをしています。月に1度はお好みメニューでの昼食を楽しみ、週に1回手作りおやつの日があります。年3回の外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に管理栄養士(併設特養)が献立を設定する。摂取量水分量は記録し、体重チェック(毎月)を実施し、健康管理に活用している主食副食とも本人の状況に合わせて必要に応じ粥、刻み食などの加工を行っている。 おやつやお茶の時間にも配慮を行っている。しかし、ADL 低下から摂取介助を要する方も増加し悩んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則、毎食後歯磨き（困難な方は嗽等）の対応に努めている。 訪問歯科医師・歯科衛生士にも相談・指導を受け取り組んでいる。 毎日の入れ歯ケアも行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンをチェックし、事前の誘導などの「トイレでの排泄」対応に努めている 夜間はオムツ対応の方が居られるが、随時見直しをしている。 排泄認知機能低下によって、上記取り組みが追いつかない方も現れている また、夜間については、生活リズムの確保目的のオムツ使用に悩んでいる。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を職員間で把握しています。声かけや前誘導によるトイレでの排泄の支援を行った結果、全員が対応できるようになり、自立へと至った事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士（併設特養）の配慮があるが献立を設定 水分量のと適度な運動の確保、下剤の調整に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のご希望生活リズムに合わせた入浴設定（時間・回数他）に努めている。 しかし、身体機能の低下から介護職員の体制が結果的に優先されてしまう事もあり、大きな課題である	利用者は平均して週2～3回入浴し、毎日の入浴を楽しんでいる方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	就寝時間・起床時間は基本的には 一人一人の方に合わせて対応して いるが、1日の生活リズムを崩壊 させないように注意している  体調を見ながら適宜、昼寝など を出来るように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	処方薬剤の内容を調剤薬局などと 文書で確認すると共に、服薬チ ェックを記録している  副作用などが疑われる場合は医 師に報告し指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	各種のクラブや催し物の参加、 散歩などを通じて取り組んでい る  近隣の福祉作業所の協力で織物 作りにも通っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るように支援している	全体としての外出を企画してい る。個別的な外出にも取り組ん でいるが、ADLの全体的な低下 により困難さが増加している。  個別的な外出への総合的な取り 組みが課題である	自然環境に恵まれ、農園や植木屋 の季節のいづれのあるホーム周 辺の散歩に日常的に出かけてい ます。初詣や季節の花見、外食 、買い物にも出かけています。し かし、以前は実施していた遠足 も、最近では機会がない状況で す。	ホーム内にこもりがちな利用者 にとって、外出はストレスを 発散し五感の刺激を得られる 貴重な機会です。重度化に伴 って利用者が一緒に出かけるこ とが困難になる中、個別もしく は少人数での外出の機会を増 やす試みをされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方は、外出などの再にお金を持参し支払いを援助しているが、機会を十分に設定できていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人からの希望があればみずから電話連絡をとって頂くよう援助している 手紙のやり取りに関しては能力的に不可能な方がほとんどである		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の飾り付けが大げさに成らないよう注意すると共に、四季折々の風情を取り入れた物となるように努めている また入居者にも飾り付けをお手伝いいただいている 基本的な換気温度湿度清潔の管理は注意をはらって取り組んでいる	ホームの周辺の庭には季節毎に花を咲かせる木が多く植えられ緑が溢れています。共用空間には、広い庭に面した開放的な大きな窓があり、そこから見える周辺の自然景観とともに、メダカを飼い、花を飾り、ぬりえ、書など利用者の作品がやわらかい雰囲気をつくっています。利用者の顔写真をつけたひな人形は、ひな壇状に貼り絵した手製のタペストリーに飾り、また折り鶴を梅の花にみたてて木に吊るしたオブジェ風の作品など、季節感にも配慮しています。リビング兼食堂は広く明るくゆったりとしており、2カ所のソファーとともに、利用者が落ち着ける居心地のよい場所になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置したりし、くつろいだ空間の提供に取り組んでいる 1・2階の行き来も自由に行っていたらいい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室の調度品は自由に持ち込んでいただいています 家族の持参された写真などを貼ったり趣味の私物を置かれています。	居室の表札はにこやかな利用者の顔写真を貼り、自作の色鮮やかなぬり絵に囲まれています。床に色とりどりの小型のカーペットを敷詰め、洋風のソファや椅子があり、日記帳もある個性的で華やかな居室、家族の気配りの見える暖かい雰囲気のある居室、書籍に囲まれ豪華なソファのある居室、袖に引出しついたユニークなソファに歌謡本、多くの歌謡曲カセットテープのある居室など個性的で居心地よく過ごしやすい雰囲気となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ浴室、居室入り口などのの表示をはじめ安心できる空間としての工夫に努めています		